

# 平成30年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 光貞 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率								
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語についての問題をはじめ、全体的に全国平均を上回っている。特に、読むことに関する問題で正答率が高い。</li> <li>・質問紙調査で、国語Aの解答時間について「時間が余った」と回答している割合が全国平均を大きく上回っており、国語科に関する基礎学力の向上がうかがえる。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文を推敲して正しい表現に直す問題の正答率は、全国平均を大きく上回った。話すことについての問題の正答率がとても高い。</li> </ul>	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慣用句の意味と使い方に関する問題と、物語を書くときの構成の工夫について説明しているものを選択する問題で、正答率が全国平均をわずかに下回った。敬語についての問題は全国平均を上回っているが、全ての設問で最も正答率が低い。</li> </ul>	

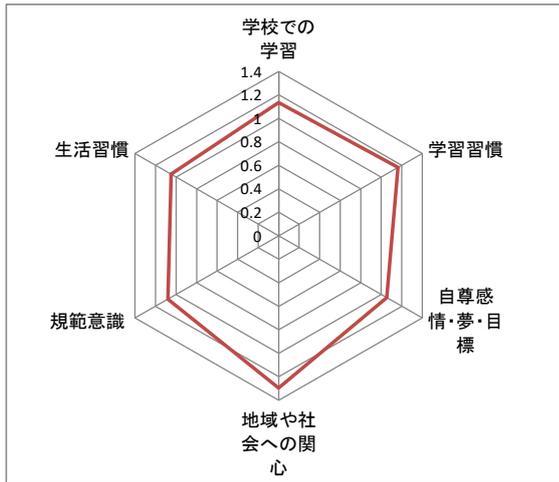
国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に全国平均を上回っている。特に、話すこと・聞くことに関する問題で正答率が高い。</li> <li>・選択式問題・記述式問題ともに正答率は全国平均を上回っているが、記述式問題の正答率は低い。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い活動で、発言者の意図を汲み取ったり、司会者の発言の役割を理解したりする問題は、正答率が高かった。</li> </ul>	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・条件に沿って文章を詳しいもの書き換える問題については、正答率が低かった。</li> </ul>	

算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に全国平均を上回っている。特に、図形領域の問題は全国平均より大幅に正答率が高い。</li> <li>・数と計算領域の問題において、正答率が全国平均をわずかに下回るものがあった。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円周率を求める式として正しいものを選ぶ問題は、正答率が全国平均を大きく上回っていた。</li> </ul>	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3桁の整数どうしの大きさを比べて十の位に入る適切な数字を全て書く問題では、数字を1つだけ書いた児童の割合が、全国平均に比べて高かった。問題文を十分に読んでいなかったと考えられる。</li> </ul>	

算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に全国平均を上回っている。数と計算、図形領域の問題において正答率が高い。</li> <li>・言葉や式を用いて考えを記述する問題での無回答率が、全国平均を大きく下回っており、正答率は大きく上回っている。課題解決に向けて粘り強く取り組み姿勢が定着してきている。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1つの点の周りに集まった角の大きさの和が<math>360^\circ</math> になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に書く問題は、正答率が高い上、全国平均を大きく上回った。</li> </ul>	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを選択する問題では、正答率が低く、全国平均をわずかに下回った。</li> </ul>	

理科	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に全国平均を上回っている。特に、B区分(生命、地球)の問題より、A区分(物質、エネルギー)の問題の方が、全国平均と比べて正答率が高い。</li> <li>・主として「知識」に関する問題については、全ての問題で正答率が全国平均を上回っている。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食塩水を熱したときの食塩の蒸発について実験結果を考察する問題で、正答率が全国平均を大きく上回った。</li> </ul>	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を推測する問題では、正答率が低い上、全国平均をわずかに下回った。</li> </ul>	

#### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
・「自分には、よいところがあると思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の肯定的回答が特に高く、全体的に自尊感情や自己肯定感をもつことができている。	
・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」について、肯定的回答が90%を超えている。児童による主体的で対話的な授業展開を進めている結果と考えられる。	
・計画的に学習に取り組む児童の割合が、全国と比べて20%上回っており、学習習慣の定着が進んでいる。	
・全国と比べて肯定的な回答が多いとはいえ、学校の授業時間以外で1日に30分以上読書をしている児童の割合が半数に満たない。また、新聞を週に1回以上読む児童は3割未満である。活字に触れる機会を増加させることが課題である。	

#### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

##### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・各担任が「『わかる授業』づくり5つのポイント」の、「4. 1単位時間の中に『話し合う活動』と『書く活動』」を特に意識するよう、「授業改善シート」を日常的に活用し、授業力の向上を図る。
- ・既習事項の定着度確認のため、朝自習の時間に学力定着サポートシステムの「基礎・基本定着問題」と「診断問題」を実施し、個々のつまづきを把握する。また、児童の実態に応じてその他学習プリントを活用し、基礎的な内容理解の深化を図る。
- ・朝自習の「読書タイム」や「音読タイム」の充実及び「わたしの読書記録」の活用、辞書を用いた意味調べの推進により、児童がたくさんの活字に触れられるようにしたり、語彙を増やしたりできるようにする。

##### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・「光貞小7つの花」(あんぜん・あいさつ・元気・しせい・もくもくそうじ・なかよし・やさしさ)を日々の指導の中で意識付けていくこと、また、本校のきまり「光貞スタンダード」や学習規律を共通理解していくことを、職員間で繰り返し確認し、児童の規範意識を高める指導に取り組む。
- ・「光貞小 家庭学習の手引き」の配布や「自主学习ノート展示会」の実施を通して、児童だけでなく保護者に対しても自主学习についての関心を高められるようにし、家庭での学習時間増加を図る。
- ・各教科等において地域施設や地域人材を活用したり、道徳科の授業において「北九州市郷土資料」を積極的に使用したりして、地域との関わりを児童が今後も大切にできるようにする。